

## 植物多様性センターの「ナンバンギセルの戦略」

高茎草地エリアのススキ原の根元にナンバンギセルが開花しています。葉緑素をもたず、自ら栄養を作り出すことが出来ません。イネ科等の根に寄生し、そこから栄養分を吸収します。寄生された植物を弱らせてしまうこともあります。花言葉は「物思い」で、万葉集では「オモイグサ（思草）」という名前と呼ばれています。同じハマウツボ科の寄生植物としては、山地に生育するオオナンバンギセルや外来種であるヤセウツボ等があります。



開花したナンバンギセル: 茎のように見える部分は花柄



まだ蕾のナンバンギセル



筒状の花の中を覗くと柱頭が見える



園内で確認されたヤセウツボ: マメ科等に寄生する